



# 「花のまちしもつま」に咲いた満開の笑顔

5月26日、「小貝川フラワーフェスティバル2013」が開催され、200万本の色鮮やかなポピーが咲き誇るなか、小貝川ふれあい公園の花畑は、1万5千人の人出で賑わいました。



迫力ある舞を披露



辺り一面満開のポピー



下妻市観光大使で司会を務めた「江戸むらさき」さん



「しもんchu」も太鼓判のこだまスイカ

## 小貝川フラワーフェスティバル2013

## 花とふれあいまつり・Eポート大会(鬼怒川)

5月19日、「第22回花とふれあいまつり・第17回鬼怒川流域交流Eポート大会」が開催されました。会場の鬼怒フラワーラインには約8,500人が集まり、満開のポピーを前に自然と笑顔がこぼれていました。



満開のポピーがお出迎え



優勝目指して漕ぐぞ!



バルーンアート、上手に作れたかな?



会場のごみ箱を作る大形小学校の児童たち

### Interview

上町第4自治区自主防災組織  
会長 池田 靖彦さん  
(下妻丁)



**東** 日本大震災を経験し、また近所で不審火の騒ぎがあったことなどから、「自分たちの地域は自分たちで守る」ということが必要だと感じ、自治区内の家庭や店舗を一軒一軒まわって理解を求め、平成24年5月に「上町第4自治区自主防災組織」を設立しました。

結成後は、「防災はまず地域から家庭から」の意識に立ち、地区内の建物ごとに「誰が、何人住んでいるか」を調査し、集めた会費で6箇所に消火器を設置しました。さらに、災害時に一時的に地区住民が集まれる場所として、地区内にある2箇所の広い駐車場を一時避難所に指定し、これらの情報を「地区マップ」にまとめて配布し、「いざ」という時に備えて隣近所の安否が確認できるよう、情報の共有を図りました。

4月7日に初めて行った防災訓練では、子ども会にも声をかけたこともあって約40名が参加し、下妻消防署や市役所消防交通課の協力を得て、消火器の使い方など初期消火や防災の心得を学びました。訓練を行うことで災害時の対処方法を身につけることができますし、会員一人ひとりが災害についてしっかりと考えることで自分たちの役割を認識することができます。今後もこれらの活動を継続し、万が一の場合、「命」を守るためには会員が共通意識を持って災害に立ち向かう姿勢を大切にしていきたいと思っています。

「防災はまず地域から家庭から」

### 自主防災組織を設立するための支援

#### 地域で考え 地域で備える

**自主防災組織結成事業** 自主防災組織を設立しようとする自治区等に対し、設立までの経費の一部を補助します。

■対象経費…説明会の開催、普及啓発資料の作成、先進地調査、防災カルテ・防災マップの作成など

■助成額……1組織あたり3万円

**資機材等整備事業** 防災訓練などで必要となる資機材や備蓄食料の購入に要する経費の一部を補助します。

■対象経費…メガホン、消火器、救助用具、非常用持出袋や、備蓄食料の購入など

■助成額……1組織あたりの対象経費の2分の1以内(上限10万円)

問い合わせ 消防交通課 ☎内線1434

### 自主防災組織で災害に強いまちづくり

自分自身を守るために ー共助ー

**災** 害が起こった場合、市をはじめ防災関係機関「公助」は全力を注いで防災活動に取り組みますが、大規模な災害は火災や道路の寸断、建物の倒壊、電気・水道などのライフラインの停止により、十分な災害救援・救助活動が行えないことがあります。こうした事態に力を発揮するのが、市民の皆さんの初期消火、負傷者の救助などの自主的な防災活動です。

自主的な活動は、個人が単独で行うのではなく、地域の皆さんが協力し合って地域の安全・安心を守らなければなりません。現在、市内の自主防災組織は、55団体が結成されていますが、当市は茨城県内でも組織率が低く、大規模な災害に備え十分な体制とは言えません。そのような中、上町第4自治区では、平成24年5月に自主防災組織を結成し、防災訓練などを通じて、地域全体で防災意識を高めています。

自主防災組織の重要性を理解し、行動することで、災害に強いまちづくりができるはずです。

### 自主防災組織の役割

- 平常時…①防災訓練の実施 ②地域の安全点検 ③火気使用設備器具の点検 ④防災資機材の整備など
- 災害時…①火災の初期消火 ②負傷者の救出救護 ③情報の収集・伝達 ④避難誘導 ⑤避難所の運営など

※これらの活動は、自主防災組織の理想的なものです。この中でできるものから段階的に実践していくのも一つの方法です。



消防署員に消火器の使い方を教わる上町第4自治区の地区住民たち